

# 横浜市立豊田小学校

## 平成28年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「豊かにかかわり、じっくり考える☆豊田っ子」をめざします。</li> <li>・ 一人ひとりが自分の考えをもち、その考えを伝えたり伝え合ったりする授業を行い、学力を向上させます。</li> <li>・ 一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。</li> <li>・ 健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。</li> <li>・ まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。</li> </ul>	

#### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組		
<b>確かな学力 (学習指導)</b> <table border="1"> <tr> <td>担当</td> <td>授業開発部</td> </tr> </table>	担当	授業開発部	めあてを明確にすることで、できた、わかったと実感できる授業を充実し、主体的に学習に取り組む子どもの育成を目指す。	1 自分自身の考えや取組がはっきりしていれば、自分から進んで学習すると考え、「自分とかかわる」ということを大切にしていける。自分自身を見つめる機会を授業の中で位置づけていく。 2 を授業に位置づけ、自分の考えを表現・交流する授業を行う。
担当	授業開発部			

### 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

平成27年度 学力

平成26年度 学力

#### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的に横浜市の平均を下回っている。生活意識では、「授業はわかりやすいですか」と答えている割合に比べて、「勉強が好きですか」といった設問では意識が低いことから、授業は楽しいが、学ぶ楽しさを感じていない児童が多いことが分かる。自分の考えをもちたり自分自身の姿を見つめたりすることを通して、自分のめあてを明確にもち、「できた」「わかった」「もっと知りたい」といった探究的な学ぶ楽しさを感じられるような授業づくりが全学年通して求められていると考える。

#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：横浜市の平均通過率と同様か低い。指導・改善が必要とされる内容は、「話す・聞く力」である。
- 算数科：第1学年「技能」が市平均を下回っている。その他は全て、市平均とほぼ同じか上回っている。
- 社会科：グラフや表の表す意味を読み取り、考察する力をつけるための指導が必要。
- 理科：「知識・理解」の値が、他の値に比べて高い。「思考・表現」「技能・表現」は指導、改善が必要。

#### (3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

平成25年度から27年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として学年間の差が縮まってきている状況が見られる。しかし、進んで家庭学習に取り組んだり読書をしたりすることは依然として意識が低い。決められたことをこなすのではなく、子どもたち自身が自ら進んで体験的な活動をしたり、調査活動をしたりすることを通して、知識を身につけていくことで、その知識を利用して、観察・実験したことを表現する力や、結果を整理してじっくり考える力につながるのではないかと考える。

### 3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組 「自分とかかわる・自分自身を見つめる」「子どもの姿をみとる」

#### 1 学年

- 生活科を中心に体験活動を取り入れ、子どもの思いや願いをしっかりとくみとるようにする。
- ペアやアグループ、縦割りなど様々な形態の活動を通して、一人ひとりのよさが感じ取れるようにする。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 2 学年

- 生活科の学習を中心に、目の前の子どもが今、一番興味をもっていること、夢中になっていることを授業の中のつぶやきやカードやノートの言葉などから拾い、儒病の中で生かしていく。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 3 学年

- 歴史のある財の多い地域性を生かし、それを活用した総合的な学習を通して、地域の人やもの、こととかかわりをもつ。
- 自分の経験や既習の内容をもとに、次の課題を見つけたらやりたいことを決めたりして学習を進めるように授業を組み立てる。
- 自分の考えと友だちの考えを比べながら考えを深めるように助言する。

#### 4 学年

- 体育科等で「自分を見つめる」「自分を大事にする」ことを重視し、なりたい自分の姿を思い描けるように、学習の場の設定を工夫する。
- 基礎基本の定着をはかり、「できる」「わかる」喜びを味わえるように、繰り返しの指導を充実する。
- 自分の考えと友だちの考えを比べながら考えを深めるように助言する。

#### 5 学年

- 算数・理科の授業を中心に、自分で考える時間を確保し、自分の考えをもつようにする。
- 学習問題を自分たちで考えて作り上げることを通して、進んで活動できるようにする。
- 自分と違う考えも聞いて、よりよい考えを導こうとする姿を称賛する。

#### 6 学年

- 教科等の学習で友だちとかかわれるように、ペア、グループ、全体など場合にに応じて学習形態を工夫する。
- 学習のめあて、学習計画を自分たちで考えて作り上げることを通して、進んで活動できるようにする。
- 友だちの話を一般化したり、経験を加えて話したりしながら、よりよい考えを導けるように指導する。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。